

第4回佐倉市行政評価懇話会 会議要録

開催日	平成31年1月16日(水)
会議時間	14時00分～16時30分
開催場所	議会棟第三委員会室
出席委員	[委員長] 武藤 博己 [副委員長] 大野 直道 [委員] 伊藤 利之、川上 いづみ、笹井 万里恵 高橋 義和、藤本 健太郎
傍聴人	1名
事務局	岩井企画政策部長、和田企画政策課長 企画政策課 藤崎副主幹、齊藤主査、児島主任主事、田中主任主事
協議事項	行政評価に関する提言書(案)について

【議事内容】 ※凡例：○=委員、⇒=行政

1. 行政評価に関する提言書(案)について

①構成に関する協議

〔決定事項〕

全体構成は事務局案のとおりとする。

- ・ 内部評価の検証を「妥当」・「改善が必要」のいずれかで評価し、その理由を記載する。
- ・ 懇話会としての提言を行う。
- ・ 各委員の意見を「各委員からの提案」として記載する。

表中の指標の表記を統一する。

〔意見〕

○表中の指標を統一感のあるわかりやすい記載となるよう工夫してほしい。例えば、表中の指標に括弧で○%増といった記載があるものとないものがある。

⇒統一感があるよう修正する。

○指標の基準日に年度と年が混在している。統一を図るべきである。

⇒年度(4月1日～3月31日)の集計数値を用いている指標と、年(1月1日～12月31日)の集計数値を用いている数値があり、統一が図られていないのが現状。わかりやすい記載に努める。

②内容に関する協議

≪「はじめに」の内容について≫

〔決定事項〕

内容は事務局案のとおりとする。

文体を「ですます調」に修正する。

## 〔意見〕

○提言を読みやすくするために、簡潔に記載するものとして文体を「である調」に統一しているが、提言の趣旨を説明する「はじめに」だけは「ですます調」がよいのではないか。

⇒「ですます調」に修正する。

## ＜耕作放棄地面積解消の取り組みに関する評価＞

### 〔決定事項〕

内部評価の検証結果

具体的施策の進捗状況は概ね良好であり、行政評価委員会の検証結果を「妥当」とする。

懇話会としての提言

担い手確保や農地の集約化等を更に進めること、集約化や継続が困難と思われる農地については多角的な検討をすることを提言する。

各委員からの提言

委員からの提案に、「担い手不足には機械化が重要」との文言を追加する。

### 〔意見〕

○指標ごとに過去の数値を掲載すると、数値のボリューム感がつかめる。18ページの※印にある「和田・弥富地区のピーク人口」のように、過去の最大値を掲載すべきと考える。

⇒記載できる数値については表の欄外に掲載する。

○農業の担い手不足対策として、GPSやAIを活用した農業の機械化が有効と考える。各委員からの提案に、「担い手不足には機械化が重要である」という文言を入れたらどうか。

○結果的に耕作放棄地は増えているが、この程度で収まっていることは評価できるのではないか。

## ＜転入超過数増加の取り組みに関する評価＞

### 〔決定事項〕

内部評価の検証結果

人口増減数は県内でも低い水準であり、行政評価委員会の検証結果を「改善が必要」とする。

懇話会としての提言

佐倉ならではのサービス等の創出、情報発信の効果検証、将来都市像を見据えた人口対策、目標値の再検証を提言する。

人口減少社会が到来し、現実には人口減少が進みつつある現在、「人口対策は将来都市像を踏まえた検討が必要であり、人口増を目標値とすることについて、今一度検討が必要」との文言を追加する。

## 〔意見〕

- 佐倉市は区画整理事業や民間の大規模宅地開発事業等の面整備によって人口を増加してきたが、大規模開発が可能な市街化区域がほとんどない現状である。土地利用の拡大や再開発を進めていくか考える時期にきているのではないか。住民が住みよさを求める中、今後も転入超過数という指標だけが佐倉市にとって目指すべき指標でよいか議論してほしい。
- 大規模開発による人口増加施策を行うには、新たなインフラ整備や自然環境の減少といった問題とセットで考える必要がある。既存施設を活用した空き家対策や近居・同居支援等、1つ1つの取り組みを地道に積み重ねていくことも重要ではないか。  
⇒住宅地の確保が転入超過数に大きく影響してくる。既存施設を活用した住宅施策を進めていくことも重要であり、来年度は近居・同居住替支援及び中古住宅リフォーム支援の対象件数を倍増する予定である。
- 総合戦略を立てる時点では自治体による地方創生に期待するという流れであったが、現在の自治体戦略2040構想の議論の中では自治体は人口減少対策が不可欠という流れになってきており、目標値の見直しの検討が必要と考える。懇話会としても提言すべきと考える。
- 金融業界では成田市が注目されている一方、ハウスメーカーなどからは土地がないとの相談を受けることがある。成田市に近い佐倉市で家を買う人が増えると考える人も多く、佐倉市の住宅ニーズが高まっていくのではないかと考える。
- 東京一極集中の更なる進展、首都東京や首都圏全体の住宅政策、成田空港完全化等、人口の流動化、住宅需給を慎重に見据えて土地利用計画が検討されるべきと考える。
- 人口対策と土地利用計画は密接な関係があることから、将来都市像を踏まえた検討が必要である。「目標値の在り方についてもしつかりと議論すべき」ということを提言してはどうか。
- 今後策定される総合計画策定過程において、都市像、土地利用構想、目標とする人口について等を十分に議論していただきたい。

## <合計特殊出生率・年少人口改善の取り組みに関する評価>

### 〔決定事項〕

#### □内部評価の検証結果

具体的施策の進捗状況は概ね良好であり、行政評価委員会の検証結果を「妥当」とする。

#### □懇話会としての提言

佐倉ならではの子育てしやすい環境づくりに努めること、心配しないで子供を産める条件（保育園・保育制度・男性の育児参加等）を用意することを提言する。

#### □各委員からの提言

男性の育児参加を推進するための取り組みとして、「企業と自治体が連携して男性の育児参加を促進していくことが重要である」との文言を追加する。

## 〔意見〕

- 生まれたての子供を連れて成人式に参加していた男性が、子供を抱いたり、おむつを替えたりなど積極的に育児をされており印象的であった。このような男性の育児参加を推進していくため、自治体と企業が連携した取り組みを進めていくことが重要と考える。
- 改善に向けた提言の「心配しないで産める条件」の括弧に、「男性の育児参加」等を入れてはどうか。
- 男性の育児参加の取り組みが自治体の話になっているので、企業も入れないといけない。「事業者の積極的な取り組みも期待したい。」などの文言を入れてはどうか。  
⇒文言を調整し追加する。
- 佐倉市は先進的と言われる明石市と比較しても充実した取り組みを実施しているとのことであり、妥当との評価でよいと考える。しかし、今後国の制度改正により、幼児教育・保育無償化等の子育て施策が実施された際は、佐倉市の取り組みが先進的でなくなることも想定される。その時の評価をどのように整理するのかが今後の課題である。

## ＜観光入込客数増加の取り組みに関する評価＞

### 〔決定事項〕

#### □内部評価の検証結果

観光客誘致に必要な「食べる事場所」「遊ぶ場所」「体験する場所」「学ぶ場所」を充実させる取り組みの視点が不足しており、行政評価委員会の検証結果を「改善が必要」とする。

#### □懇話会としての提言

「食べる事場所」「遊ぶ場所」「体験する場所」「学ぶ場所」を充実させる取り組み、悪天候や改修工事等に伴う利用制約を考慮した評価方法を提言する。

## 〔意見〕

- 表にイベント客数（B）を入れ、「Aイベントを除く観光入込客数+B=合計」とわかるようにするのがよい。  
⇒指標に追加する。
- Free-WiFiのカバー率は。  
⇒城址公園や岩名運動公園等、主要13か所にWiFi環境を整備。京成佐倉駅周辺を含め、観光客が行きそうなどころには整備済。
- 民間の店舗が、情報発信、おもてなし向上の観点から、自らがWiFi環境を整備していくような機運を高めていくことが重要ではないか。
- 食べる場所、遊ぶ場所の充実を、既存施設を有効活用することで成功している自治体もある。香取市では古い建物をフランス料理店に改修し東京から人を呼び込むことに成功している事例があり、参考になるのではないか。  
⇒佐倉市では図書館の建て替え事業で、新町に新しい図書館を整備する。近くにある旧

駿河屋の活用を図書館整備と同時にできるよう進めていきたい。旧平井家住宅、旧吉田邸も城下町の風情を残した住宅であり、活用を考えていきたい。  
○地域を支える人を集めることが行政の最大の仕事の一つと考える。

#### <佐倉朝日健康マラソン大会の大会申込者数増加の取り組みに関する評価>

##### 〔決定事項〕

###### □内部評価の検証結果

参加者減少の分析がなされていないことから、行政評価委員会の検証結果を「改善が必要」とする。

###### □懇話会としての提言

参加者減少の分析、分析結果に基づく対策を行うことを提言する。

##### 〔意見〕

○各地でマラソン大会が増えていることや、定年の延長等で60歳から65歳までの多くの方が就業を継続していることの影響はあるのか。制限時間が長いこと、公認コースであること、賞金レースであること等、市民マラソン大会としては魅力的な大会である。詳細な分析が必要ではないか。

○佐倉市のマラソン大会は田んぼ、細い道が多く景色が変わらない。何回か参加すると飽きに来て、別のマラソンの方が面白いと感じるランナーも多いのではないか。

○42km、3kmの申込者は横這い状況だが、10kmの申込者が減少傾向にある。評価指標が全体数となっていることから減少として捉えられるが、距離別指標等の補助的な指標を設けることなどにより実態をわかりやすくしていくことを検討していく必要があるのではないか。

○コースの検討は大きな課題。まちの中を走るには京成線の軌道を超えられないという制約はあるにせよ、楽しく走れるための検討を続けることも必要ではないか。

#### <在宅医療・介護の連携の取り組みに関する評価>

##### 〔決定事項〕

###### □内部評価の検証結果

行政評価委員会の検証結果を踏まえた担当課対応（団体間の連携強化・新たな指標の設定の検討等）を「妥当」とする。

###### □懇話会としての提言

医療機関との組織横断的な取り組みを期待することを提言する。

##### 〔意見〕

○担当課対応がしっかりしている。担当課対応のとおり市民の意識や満足度を評価するという方向でよいのではないか。

#### <各種がん検診の受診率向上の取り組みに関する評価>

### 〔決定事項〕

内部評価の検証結果

担当課の検診機会拡充の取り組みは評価できることから、行政評価委員会の検証結果を「妥当」とする。

懇話会としての提言

受診メリットの情報発信をさらに充実・強化することを提言する。

### 〔意見〕

○指標の表が分かりにくい。初期値にも現在の国から示された基準に変換した数値を入れてはどうか

⇒追加する。

○全国的に健康行政の担当者は努力されているものの、受診率はなかなか上がらない。日本人の健康意識の低さに起因しているものと考える。

## ＜特定保健指導の指導率向上の取り組みに関する評価＞

### 〔決定事項〕

内部評価の検証結果

担当課の保健指導の実施機会拡充の取り組みは評価できることから、行政評価委員会の検証結果を「妥当」とする。

懇話会としての提言

受診メリットの情報発信をさらに充実・強化することを提言する。

### 〔意見〕

○集団検診の会場で保健指導を実施するとは、対象となりそうな人に前もって保健指導を実施するということか。

⇒今年度より、検診会場で、腹囲や血圧等の項目で該当となる人に、面接又は保健指導の予約を取るようにしている。

## ＜生活習慣病予防健康教育累計実施回数増加の取り組みに関する評価＞

### 〔決定事項〕

内部評価の検証結果

健康講座が減少した分析が必要であることから、「改善が必要」とする。

懇話会としての提言

生活習慣病予防健康教育の受講者数を指標とすることも含めて検討することを提言する。

### 〔意見〕

○現状行っている回数の把握も大事であるため、対象人数を指標にすること「を」を「も」に修正する。

○対象者数を把握しているか担当課に確認してほしい。

#### <自治会・町内会への加入率増加の取り組みに関する評価>

##### 〔決定事項〕

内部評価の検証結果

更なる運営支援が必要であることから、行政評価委員会の検証結果を「改善が必要」とする。

懇話会としての提言

自治会活動に取り組みやすい情報提供に努めることを提言する。

##### 〔意見〕

○自治会・町内会は単身世帯でも大人数家族世帯でも会費一律であり、単身世帯には割高感があることが要因の一つではないか。

#### <公民館・図書館・音楽ホール・美術館・コミュニティセンターの利用者延総数増加の取り組みに関する評価>

##### 〔決定事項〕

内部評価の検証結果

市民の利用割合を把握する取り組みの検討がなされていないことから、「改善が必要」とする。

懇話会としての提言

利用状況の詳細な分析と分析結果に基づく対応策を立てることを提言する。

##### 〔意見〕

○コミュニティセンターは会議室の利用がメインであるが、それ以外の施設は主催事業によって利用者数が左右される。目的や役割が異なる施設を一律に取りまとめると、各施設の達成度合いが見えてこない。指標の立て方を整理する必要がある。それぞれの施設で工夫しても、トータルとして達成できなかったときは、それぞれの施設が達成できていないと見えてしまうことから、施設ごとの利用者数も示す必要ではないか。

#### <和田地区・弥富地区の人口維持の取り組みに関する評価>

##### 〔決定事項〕

内部評価の検証結果

定住・移住支援等の更なる対策が必要であることから、「改善が必要」とする。

懇話会としての提言

組織横断的な取り組みに努めることを提言する。

##### 〔意見〕

- 車の運転ができる農業従事者の移住を進めたとしても、いずれは公共交通が必要となることから、コミュニティバス等による交通手段の確保は重要である。
- 和田・弥富地区はコミュニティがしっかりしており、今でも近所の住民が車に乗せて出かけるということはあるが、いざというときの公共インフラとして公共交通は残しておく必要がある。「1日10人程度の利用しかないから、必要ない」とはならない。公共交通は目に見えない地域の安全性を担保している。

#### 《総括的な意見》

- 今年度は初期値以下の指標を評価したが、実際に評価をしていく中で、他の指標も見ないと事業の全体像がわからないということがあった。マイナス部分の評価だけでなく、プラスの評価も行う必要があるのではないかと感じた。
- 文化施設については、各施設単位の評価と結果の評価が一致していないと考えられ、指標の再検討が特に必要と考える。その他についても、細かい指標、補助的な指標、新しい指標の検討等、指標の整理が必要ではないか。  
⇒ 指標の評価のあり方や指標自体が適正なのかを含め、検討したい。
- 来年度、初期値以下だけではないものも評価するとなると、評価するものが増え、十分な議論もできなくなると思われる。何を優先して評価するかを考えると、初期値以下と類似のものを抱き合わせて評価する方法が考えられる。このため、懇話会としての評価は今年度と同様、初期値以下のものとするが、達成しているものに関する資料も加えてもらう等の方法も考えられるのではないか。

## 2. 次回日程

- 次回は、提言書を最終調整し、市長に提言する。
- 2月14日（木）の午後を仮日程とする。

(以 上)